



チムとゆうかんなせんちょうさん

チムシリーズ

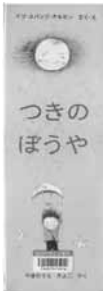
エドワード・アーディゾーニ さく

せた ていじ やく

福音館書店 1963年 1365円

48ページ 27×20cm

チムぼうやは船乗りになりたいのに、お父さんとお母さんが取り合ってくれないので、とうとう汽船に密航をはかりました。見つかって船長に怒られましたが、船のしごとをやり遂げて、船員たちに気に入られました。船の暮らしに慣れた頃、嵐が船を襲いました。沈みかかる船に残った船長とチムがしっかり手を握って、最期の覚悟を決めたとき……。 「なくんじゃない。いさましくしろよ。わたちは、うみのもくずときえるんじゃ」年齢差を超え、勇敢な船乗り同士としてチムと船長の心がつながる場面は胸が高鳴ります。チムシリーズ全11巻は35年にわたって書かれ、どの話にも責任や友情、冒険のロマンがぎっしり詰まっています、読む人を夢中にさせます。



つきのぼうや

イブ・スピング・オルセン さく・え

やまのうち きよこ やく

福音館書店 1975年 1050円

24ページ 34×13cm

お月さまが空から下を見ると、池の中にもうひとつのお月さまがいました。そこでお月さまは、月のぼうやを呼んで池のお月さまを連れてきてくれるように頼みました。月のぼうやはわたぐもを抜け、鳥の群れを抜け、丘の上、まちの通りに降りていきました。まるいものはたくさんあるけれど、どれもお月さまではありません。ようやく池にたどりついてかわいらしいお月さまを見つけました。

月のぼうやがどンドン下へ降りて行ったり、上へ昇って行く動きが縦長の絵本の形に生かされています。ユーモラスでかわいらしい絵も楽しい絵本です。

